

## ロービングウォールⅡ工法

【更新承認日】 令和5年9月22日

【取得会社】 ライト工業株式会社

【技術詳細に関するURL】 <https://www.raito.co.jp/>

### 技術の概要

ロービングウォールⅡ工法は、砂と安定化材の混合物に、長繊維をエアの圧力により強制的に吹付ノズル先端にて混入させ、斜面・法面を吹付造成した補強土構造物と、その補強土表面を植生基材吹付工などで緑化する2種類からなる工法の一体施工方法の総称である。

本技術は、急傾斜地、砂防関連斜面・法面、山腹崩壊跡地、河川・ダム・海岸関連等の斜面・法面保護対策や植生回復・緑化対策に適用する。積雪寒冷地を含む全国（北海道～沖縄）の斜面・法面に適用している。

### 技術の特長

- ① 長繊維混入補強土と表面緑化工の一体型緑化工であるため、補強効果を有し、かつ全面緑化が可能である。
- ② 地山の改変を最小限にしながら早期に斜面・法面の表層崩壊防止と周辺自然環境との調和を図れる。
- ③ 長繊維混入補強土は造成厚さが20cm以上と厚いため草本類から木本類まで多様な植物の根系伸長域として機能する。
- ④ 長繊維はエアの圧力により160mの長距離搬送が可能であり、急傾斜地や長大斜面・法面においても施工可能である。



施工前

ロービングウォールⅡ工法  
(法面保護タイプ)

現場吹付砕工  
(既存工法)

河川護岸の例

### 施工事例



吹付前

施工5年後

緑地法面防災工事(法面保護タイプ)の例



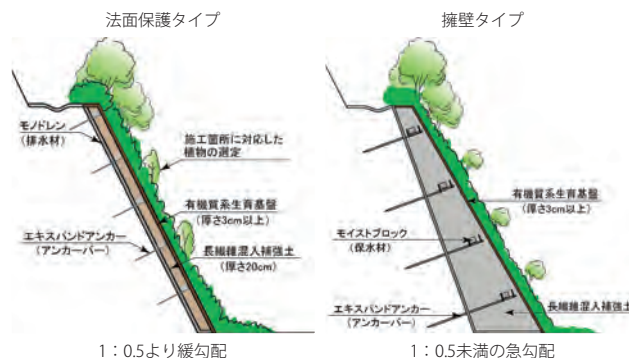
施工中(長繊維混入補強土吹付工)

施工21年後

擁壁タイプの例

### 既存工法（現場吹付砕工）に対する優位点

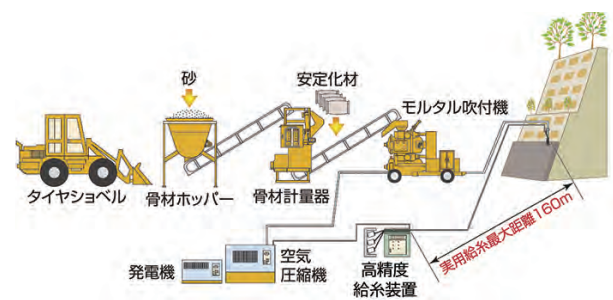
- ・斜面安定上、十分な強度を有する長繊維混入補強土に変えることで、鉄筋組み立て作業が不要となり、作業の省力化・経済性の向上が図れる。
- ・長繊維混入補強土に変えることで、全面緑化が可能となり、周辺景観との調和と植生回復・緑化対策が図れる。
- ・構造物の形状を格子砕状から面状に変えることで、平滑吹付け仕上げが容易となり、コテ作業の省力化が図れる。



1 : 0.5より緩勾配

1 : 0.5未満の急勾配

ロービングウォールⅡ工法 概要図



吹付フロー図